

2020年7月15日

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

第18号

すくらんぶる

最情報報

7.15

理事会

7.30

県内例会企画会議

8.18

理事会

8.27

劇場代表者会

9.11

北島尚志講演会

9.29

理事会

10.27

2021 企画県内調整会議

11.5

理事会

11.19~11.24

絵本をあそぼう

第19年度 通常総会

2020年6月12日(金)10:30~12:30 たらみ図書館研修室

第19年度通常総会は、長崎県の新型コロナウイルス感染者数が17名から増えることなく落ち着いてきたことから、マスク着用や広めの会場で密にならないなどの配慮をしながらの開催になりました。例年より短い時間、少ない人数ではありましたが、このような状況の中で今年度の様々な活動や事業について意見交換をすることができたことは有意義でした。

まず、団体正会員である子ども劇場からコロナ禍での現状について話してもらいました。ながさき子ども劇場は、親子キャンプと高学年キャンプを8月に日帰りで計画していること、また中止になった鑑賞例会の機会を活かせる工夫などを運営で話し合っていました。佐世保子ども劇場は、こんな時だからみんなのつながりを感じられるような機関紙を発行。9月からは、いよいよ50周年の企画がスタートします。諫早子ども劇場は、9月の例会にちなんだネーミングの「わいてくるくる通信」を発行。毎年恒例の干潟であそぼうは中止になりましたが、1Day キャンプで磯あそびをしようと計画中です。はさみ子ども劇場は、4月からの新しい年度で組織運営を見直し、会費の値上げをする。広報活動として、その都度ニュースを出して会員にお知らせが届くようにするなど新たな取り組みを始めました。残念ながら出席できなかった老岐子ども劇場からは、平山運営委員長から「1日でも早く生の舞台を観ることのできる日が来ますように」というメッセージが届きました。また創造団体、正会員、賛助会員の方からも心強いメッセージをいただきました。鑑賞例会、会議の中止や延期、活動の自粛など2月末頃から時間が止まったような時を過ごしてきたそれぞれの子ども劇場からは、あふれ出すように現状や子どもたちへの思いが語られ、参加者全員が気持ちを共有できた報告でした。

次に議長、書記の選出後、議長から議決権総数21のうち、出席者15、評決委任2、書面評決4で総会成立の報告があり、議事が始まりました。第1号議案（事業報告・決算報告）では、1年を振り返り、課題に沿ったまとめの報告がありました。第2号議案（役員選出）では、新しい理事に諫早子ども劇場の尾崎由美子さんを迎え、大きな拍手で承認されました。第3号議案（事業計画・予算）の大きな課題は、第25回長崎県子ども舞台芸術祭典の中止による収入減です。昨年台風で中止になった三井楽バラモンキッズ実行委員会と合わせてのピアノの魔術師のリベンジ公演開催については、コロナ禍の中、延期に次ぐ延期でしたが、券売が今の時点で可能かという点について活発な意見が出されました。厳しい財政の中、活動を縮こまらせないために、事務局長からは、助成金や持続化給付金の申請をして事業を行なっていきたいという説明がされました。

子ども劇場の特徴である鑑賞活動や自主活動は集い、話し、共に活動するという密が避けられないものです。今こそ多くの知恵を出し合い、力を合わせて乗り切っていかなければと感じた総会でした。



祭典中止のお知らせ

第25回長崎県子ども舞台芸術祭典は中止します。3月末の段階で46の実行委員会が49ステージを取り組むことが決定していました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大と共に県をまたぐ移動の制限などの自粛要請がなされ、先の見えない不安の中、準備を進めていくのは難しいという判断になりました。

来年は状況が収まり、取り組むことや観ることを楽しみにしていた皆様とまた出会えることを願いたいと思います。

今年も、「つながる、つなげる」をテーマに 県内高校生・青年交流合宿

2020年2月23～24日 長崎市三和少年交流センター

参加：高校生10名／青年10名、大人2名、計22名

昨年実施して「また来年も」と継続実施となった県内高校生・青年交流合宿。ひとりひとりにはやりたいことをいろいろ話していましたが、県内各地の高校生が実行委員会体制をつくり、年間を通して集まり話し合うことはなかなか難しく、この合宿を実施すること自体が目標になりました。それでも昨年の合宿でつながったメンバーは、この一年連絡を取り合いながら、それぞれの自主活動に参加し合うなどの交流が出来たようです。その中の一つ、昨年11月2日に開催されたながさき子ども劇場高学年企画の「ナイトハイク」には、佐世保子ども劇場から高校生2人と青年1名、諫早子ども劇場からも青年1名が参加しました。実際に参加することで活動の様子を実感し、それが刺激になったようで、自分の所属の子ども劇場に戻って「中高生グループ活動をしたい」と大人に伝えたそうです。

年間を通じたこのような交流で、顔見知りになったり仲良くなったりしたこともあり、この合宿でも最初から新高高校生2名をはじめ初参加のメンバーもみんなよく話し、いきいきと安心して自分を表現して遊び合っていました。

合宿の内容は、企画ごとに各地域の子ども劇場が担当しました。集合後の「買い出し」とそれにつながる「夕食企画」を佐世保、「オープニング」と「エンディング」を諫早、「室内レク」と夜の「語り企画」をながさき。2日目には、高校演劇部部長を経験し大学もその道を目指すことになった高3の立川くんが、演劇的手法をもちいたワークショップのファシリテーターを担当しました。子ども劇場の高校生青年のオープンマインドと表現する力には脱帽。面白さに向かって協力し合ってアイデア豊富に表現する姿に、みんなで大笑いしながら楽しい時間を過ごしました。



ナイトハイクで交流（2019.11.2）



集まったの話し合いができないで、青年代表によるLINEでのやり取りでの打ち合わせと準備だったので、各子ども劇場で受け持った企画を、全体で事前に共有しないまま当日を迎えたことに、反省が残りました。また、まとめの会を4月に計画しましたがコロナ禍のなか集まることができず、各子ども劇場で話されたことを文書で共有しました。「合宿はとても楽しく刺激し合えた」「今後も子ども劇場の壁を超えて交流していきたい」「語り企画が全員ではなく小グループに分かれれば一人一人もっと話せたと思う」「スマホを置くよう一言あった方が良かった」「テーマも子ども劇場のことだけでなく自分を語るようなものもあって良かったのでは」などの声が寄せられました。集まって話をする時間も取れない高校生や青年が、主体的にやりたいことをやるためにはどうしたらいいか、また来年につながっていくことができるよう工夫し考えていきたいと思っています。



わたしの『観る、観るとき、観れば』

子ども劇場は様々な生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことも目指して活動しています。今回のリレートークは、佐世保子ども劇場の伊藤香英さん。1966年に福岡で発足した子ども劇場は、その運動に共感した青年や親たちの力で全国各地につくられました。その活動は、1989年に子どもの権利条約が採択され31条「子どもの文化的権利」を保障することをミッションとして、さらに幅広くなりました。1998年に特定非営利活動促進法が制定施行されたことも影響して、全国の子どもの劇場、おやこ劇場も様々な組織形態に変化しながら、地域の子どもの文化に責任を持つという活動に広がりを見せています。

◆劇場とわたし

わたしは、愛知県の新興住宅地で育ちました。山林を切り開いて、突然できあがったその町は、住人向けの小さな商店が数軒あるだけで、図書館や映画館といった、文化的と呼ばれるものからは、隔絶された場所でした。街育ちの母は、「文化果てし所」と感じたそうです。そう思ったのは母だけではなかったようで、「子ども達に、文化を」と集まった他の親達と、親子劇場に参加します。

わたしの初めて見た舞台は、お金を積み立てて、みんなで名古屋まで観に行った「くるみ割り人形バレエ」でした。2歳のわたしを、「こんなチビ、大丈夫かしら」と思いながら連れて行ったところ、黙ってじーっと見ていたとのこと。以後、たくさんの舞台を、近所の集会所や、名古屋の小劇場で観ました。

そんなわけで、わたしは、文化果てし所で、猿のように育ちましたが、親子劇場のおかげで「舞台」が、どんなものか知ることができました。「語る」「踊る」「歌う」「演じる」人を、間近で見ました。時に、片付ける手伝いや、準備もしたので、演者の旅生活や、舞台の裏側を垣間見ることもありました。

高校を卒業すると、わたしは町を出ました。東京の大学に通い、海外で絵本を出版し、仕事や日々の生活に忙しく、劇場のことを思い出す事などありませんでした。わたしの所属していた親子劇場は、新興住宅地の高齢化とともに、いつの間にか消滅していました。

さて、うん十年後。縁あって結婚し娘が生まれ、夫の転勤で、佐世保に引っ越します。そこで、1歳の娘と、子ども劇場の公演に足を運びました。ごぎに並んで座った子ども達が、目の前に設営された舞台を前に、ザワザワと待っています。

その時、子ども時代に観たさまざまな舞台の放っていた「特別な空気」が蘇ってきました。1つ1つの舞台も内容も覚えていない。でも、この空気は、知っている。急に、胸の奥がキューとして、目頭が熱くなりました。

自分はしあわせな子どもだったのだと知りました。「舞台を見て育った子ども時代の思い出」は、いくら、お金を払っても、後からでは買うことができません。その年齢、年齢で、多くの人に支えられながら、積み重ねていくものだからです。わたしに、その思い出があるのは、その空間と時間を支えてくれた、社会があったからなのです。

今、娘が、同じように、思い出を重ねています。仲間に囲まれて。その横顔を、しあわせな気持ちで、見せてもらっています。そして、支える大人もまた、しあわせなのだと知りました。しあわせの連鎖が続いていくことを、願ってやみません。

(伊藤 香英/佐世保子ども劇場)

子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名		場所	主催
わいてくるくるおんがっかい (ロバの音楽座) ☆ (乳幼児作品) ポロンポロン	9月17日(木)19:00 開演 ☆10:45 開演	吉岐の島ホール 中ホール	吉岐子ども劇場
	9月20日(日)16:00 開演 19:00 開演 ☆11:00 開演	たらみ図書館 海のホール	諫早子ども劇場
	9月21日(月)18:00 開演 ☆11:00 開演	長崎ブリックホール 国際会議場	ながさき子ども劇場
○△□ (まるさんかくしかく)ちゃん (劇団 AFRICA)	9月18日(金) 10:30 開演	佐世保市民文化ホール	佐世保子ども劇場
Witty Look の Life' s a Circus!!!! (チキキ*パークウ)	12月3日(木)19:00 開演	諫早市民センター	諫早子ども劇場
	12月4日(金)19:00 開演	佐世保市民文化ホール	佐世保子ども劇場
	12月5日(土)18:30 開演	長崎市民会館文化ホール	ながさき子ども劇場

**NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26
北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

はさみ子ども劇場

TEL: 0956-85-4273

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会



◆北島尚志講演会

9月11日(金) 10:30~12:30

場所: たらみ図書館海のホール

参加費 1,000 円

子どもがいろんな形で出す

「ことば」や「表現」

発信しやすい環境をどうつくるのか?

大人としてどう関わり応援するのか?

子どもたちの主体的な活動を支える

大人たちの学びの場です。

みんなで考えあいましょう!

あそび心を広げていきましょう!

* 1月に継続事業(実践の場)として、北島尚志さんを講師に迎え劇づくりワークショップを行います。

子どもゆめ基金申請中

◆絵本をあそぼう

~絵本は親子のコミュニケーションツール~

講師: 中市真帆さん

11月19~24日

「とびだせ絵本!」県内4カ所で開催
遊びながら絵本の子カラを再発見!
絵本の世界をあそび、ゆったりとしたやさしい時間を親子一緒に楽しみましょう。

「絵本の読み聞かせのお話」

県内1カ所で開催
絵本の面白さ、子ども達と楽しくコミュニケーションする知恵を学びましょう。



★編集後記★

東日本大震災直後の原発事故以降あった、原発に頼る生活は本当に豊かなのか、他のエネルギーに移行するべきではないかという議論もいつのまにか影をひそめた。コロナ禍の中、突然の一斉休校に教育現場は混乱し9月新学期という案も浮上した。テレビや新聞では賛成や反対の様々な意見が出されていたが、その議論もいつのまにか消えていった。再三の子どもの権利委員会の勧告は、日本の教育の過剰な競争を懸念している。子どもたちにどんな教育をするかは、どんな国を目指しているかである。フィンランドやスウェーデン、デンマーク、オランダなど教育の無償化や個性あふれる学校、入学時期がばらばらだったり、子どもたちの理解度による進級のシステムがあったりする。自主性を重んじ自分の意見を持つことが求められる。いったん就職した後に大学に進学するなど、社会全体が一律の価値観では成り立っていない。しっかりした理念のもとこんな教育システムがつけられている。対処法的な議論ではなく日本の教育を考えるチャンスでもあったと思うがそれができない。なぜできないのか、理念がないから展望を持っていないのではないか。私たち国民が選んだ政治家たちは、金で票を買うような浅ましい人間や、私の責任ですと何度もいいながらいっさい責任はとらない政治家ばかりではないはずだ。国民の幸せを願い、憲法に従い子どもたちの未来のためにと行動する政治家もいるはずと信じたい。そんな理念を持った政治家を私たち国民が選んでいかないとこの国はとんでもないことになると思ったステイホーム期間だった。(N)

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に2003年にNPO法人として活動を開始しました。長崎県内にある5つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。「長崎県子ども舞台芸術祭典」、講演会や学習会などの事業を行っています。

子どもに夢を!たくましく豊かな創造性を!

私たちは子どもの文化を応援します。

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL0957-22-0292

〒854-0072 諫早市永昌町43-6
医療法人 マツオ内科クリニック

TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220

佐世保の中心、ビジネス&観光に。
セントラルホテル佐世保



〒857-0872 佐世保市上京町3番2号
Phone 0956-25-0001

0120-69-0511

ダイハツチバナ

有限会社 **林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378



ホテル ウイング・ポート長崎

白山陶器株式会社

白山陶器

〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL. 0956-85-3251 FAX. 0956-85-6630